

# 日本におけるCSO事業開始20周年、日本CSO協会設立7周年を 迎えるにあたり、関係団体の皆さまより御祝辞をいただきました



日本製薬工業協会 常務理事  
田中 徳雄 様

日本CSO協会設立7周年、ならびにCSO事業開始20周年、誠におめでとうございます。  
貴協会の常に時代の先を見た活動が、この事業をここまで大きく成長させたことと、  
衷心よりお喜び申し上げます。  
ご承知のとおり、昨年来の薬価制度の抜本見直しや後発医薬品の更なる使用促進等で、  
製薬業界は大きな転換点を迎えています。CSO事業にも少なからず影響が出ているよう  
にも聞き及んでおります。  
しかしながら、厳しい時代だからこそ、大地に根を張った活動が求められます。  
製薬企業は、今まで以上に優れた鍛えられた人材、常に医療関係者、患者さんの視点に  
たった活動が出来る人材、更にルールやコンプライアンスの遵守が出来る人材を求めて  
いることには変わりはありません。  
その意味において、CSO事業の重要性はさらに高まってくるものと思います。  
貴協会のますますの発展と、製薬産業が国民より信頼され続けることを祈念しまして、  
お祝いの言葉とさせていただきます。

公益財団法人 MR認定センター 専務理事  
佐藤 和人 様

このたび貴協会が設立7周年をお迎えになられ、さらにCSO事業が20周年を迎えられたこと、  
心からお慶び申し上げます。  
わが国においてコントラクトMR (CMR) が定着しましたのも、貴協会の努力の賜物と感銘を  
受けております。  
現在、MRを取り巻く環境は厳しさが増してきて、さらに、MRの業務の在り方もICTの利用  
促進、ビッグデータの活用やAIの出現等により大きく変化しています。  
こうした中で、貴協会の発行している実態調査によりますと、2017年の稼働CMR数は前年比  
9.5%の減少を示しています。これはMR数の減少に歯止めが効かない状況が影響していると  
考察できますが、一方CSO活用企業は過去最高を更新し拡大基調を示し、CMRの活用は  
そのすそ野が広がる可能性を推察できます。  
医療が大きく変化する中で、CSO企業は充実した教育体制や経験豊富な人材を有すること  
から、製薬企業には必要不可欠になるものと思います。  
今後も貴協会の一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。